

Campus News

【キャンパスニュース】

2022. **7**
Vol.60

【特集】

- 4月に木村雅和新学長が就任
- 4月に土木工学科を開設しました
- 理科実験講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催します
- ふくろい産業イノベーションセンター「ピッチイベント」を開催しました



■土木工学科の1期生が入学

今年4月、理工学部土木工学科を開設しました。第1期生として31名が入学し、これから4年間、防災・減災の在り方や、人々の生活の質を高める都市計画や地域計画、自然環境との融合や生活環境を考慮した社会基盤整備などに求められる技術や理論を学びます。

はじまりを、つくる



静岡理科大学



4月に木村雅和 新学長が就任



今年4月、本学の新学長に、木村雅和が就任しました（任期：令和4年4月～令和8年3月）。木村学長は静岡大学副学長、同大イノベーション社会連携推進機構機構長、同大理事などを歴任され、現在、同大電子工学研究所所長などの役職を務められています。今般、本学および静岡大学のそれぞれに在籍しながら本学の舵取りを担うこととなりました。

本学は木村新学長のもと、地域の知の拠点として、地域社会と連携し、これからの社会を支えるイノベーション人材を育ててまいります。

学長プロフィール（令和4年4月1日時点）

- 【年齢】** 61歳（昭和35年生）
- 【学位】** 工学博士（東北大学）
- 【研究分野】** ものづくり技術（機械・電気電子・化学工学）、電子デバイス、電子機器
- 【経歴】**
- 昭和58年 東北大学工学部電子工学科 卒業
 - 昭和60年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程 修了
静岡大学電子工学研究所 助手
 - 平成4年6月～平成5年11月 ヴィクトリア大学（カナダ）機械工学科 客員助教授
 - 平成10年5月～平成11年2月 文部省内地研究員（東北大学大学院工学研究科）
 - 平成11年 静岡大学電子工学研究所 助教授
 - 平成16年 静岡大学イノベーション共同研究センター 教授
 - 平成20年 静岡大学イノベーション共同研究センター センター長
 - 平成23年 静岡大学 学長補佐
 - 平成24年 静岡大学イノベーション社会連携機構 副機構長
 - 平成25年 静岡大学 副学長
 - 平成25年 静岡大学イノベーション社会連携機構 機構長
 - 平成27年 静岡大学 理事（研究・産学官連携担当）
 - 令和 3年 静岡大学電子工学研究所 教授
静岡大学イノベーション社会連携推進機構 副機構長（現在に至る）
はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点 拠点長（現在に至る）
 - 令和 4年 静岡理工科大学 学長
静岡大学電子工学研究所 所長 併任

学長挨拶

地域の知の拠点として

学長 木村 雅和

本年4月1日に野口博先生の後任として静岡理工科大学の第6代学長に就任致しました。簡単に自己紹介させていただきますと、学生時代より半導体の研究について基礎から応用まで広く携わって参りました。毎日実験を繰り返しても、中々思ったような結果が得られず、気持ちが折れそうになりながらも、指導教員、先輩、友人に励まされ、研究を続けました。研究はある意味、孤独で厳しい闘いですが、「なぜ?」という素直な疑問の答えを得るためのワクワクする作業でもあります。本学においても、ごまかさずに物事を考えていくこと、実験をして得られた結果について、きちんと自分で考えて解釈していくことができる人材を育てていきたいと考えています。創造性は奇をてらうことなく、研究において地道な実験と、その中で自分自身の考えをまとめていくことの繰り返しで養うことができるものと確信しています。

本学が地域にとって欠くことのできない、「地域の知の拠点」として、新産業・新技術の創出に貢献するとともに、これからの社会を支えるイノベーション人材の輩出にも寄与していきたいと考えております。

静岡理工科大学の今後の教育・研究・社会連携の活動にご期待いただくとともに、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

今後目指すこと

18歳人口の急激な減少、地方の人口減少とそれに伴う地域経済の衰退など、地域の課題はそのまま地方大学の課題でもあります。このような厳しい状況乗り越えて、本学が生き残っていくためには、全国的にも特徴のある大学として本学の強みを活かしつつ、さらに尖っていくことが必要だと考えています。

2017年には県内唯一の「建築学科」を設置したのに続き、今年度からこれも県内唯一となる「土木工学科」を設置し、大きな社会課題である環境問題や都市工学に対応できる体制を整備しました。また、2024年には、JR静岡駅北口に本法人グループで開設する「御幸町キャンパス」に本学のサテライトキャンパスを設置し、全県に向けた情報発信や教育研究の新しい展開の準備を進めています。

このような事業を進めつつ、中長期的には「地域の知の拠点」として地域社会との密接な連携の下、イノベーション人材の育成、研究力の強化、博士課程の設置のために、抜本的な大学改革を進めていく覚悟です。分野によっては世界トップの研究、そして専門技術の習得に留まらず事業を統括する訓練を受けたイノベティブ・エンジニアの育成が10年後の目指す姿です。

遠州灘

最近、「天の川銀河中心のブラックホールの撮影に初めて成功」というニュースを目にしました。正確には、ブラックホールそのものの撮影ではなく、周りで光り輝くガスにより、ブラックホールの存在を映し出したわけです。このブラックホールは、太陽の400万倍の質量をもっているそうで、地球から約2万7千光年の距離にあり、銀河の中心、いて座の中にあるそうです。いて座は夏の星座であるさそり座の東の方にあります。最近、光害で天の川もなかなか見えませんが、久しぶりに心が躍った素晴らしいニュースでした。さて、今年は早くも猛暑日となったり、突風らしきものが発生したりと、執筆時点の5月末の今からどの様な夏になるのか、つつい考えてしまいます。しかし、日々を大切に。そして、去年も見えなかった七夕が、今年は見えますように。(K)

特集

4月に土木工学科を開設しました

今年4月、理工学部で静岡県内で唯一となる土木工学科を開設し、第1期生31名が入学しました。新入生はこれから、土木工学の基本である「水工学」、「地盤工学」、「建設材料工学」、「構造工学」、「環境・計画学」の各分野と、関連した幅広い領域との繋がりをバランスよく学び、専門的な知識・技術へと発展させます。そして、静岡県のリアルな防災・減災対策を題材として課題に取り組むことで、視野を広げ能動的な行動力を育てていきます。

●本学の土木工学科で学ぶ分野

水工学分野

「水」との共生を考え、ライフラインとして管理する「利水」、河川氾濫や津波から暮らしを守る「治水」、日常的な生活に豊かな潤いを与える「環境」の3要素を、自然との共生理念のなかで構築することを学びます。

地盤工学分野

様々な地盤を有する静岡県で、土地災害などの自然現象を扱い、地盤の成り立ちや性質、特徴を理解することで、土木構造物の設計や維持・管理への活用、自然災害への対策、災害を防ぐ問題解決能力を培います。

建設材料工学分野

コンクリート、鉄鋼、高分子材料などの土木材料特性を理解し、材料選定、設計、製造、施工、維持管理、開発を学び、システム構築を通じて、安心・安全で長期間供用し、社会基盤の整備に役立てることを目指します。

構造工学分野

社会基盤を支える構造物について、新たな構造や維持管理のための技術を学びます。コンクリートや鋼を使用した構造物の力学的な評価・設計、カーボンなどの新材料を使用した新構造の開発、長寿命化のための補修や補強などを学びます。

環境・計画学分野

安全性や環境の視点からのまちづくりを考え、交通計画、都市・地域計画（スマートシティ）、インフラマネジメントに、ICTや災害の視点を加え、未来の都市や交通をデザインする手法を学びます。

●教員からのメッセージ



学科長
松本 健作 教授
(河川工学研究室)

気候変動に対応するため、新たな水理技術の開発が求められています。そして、その技術開発の根底にあるのは「人と河川の密接なつながり」です。安全・安心で、潤いのある都市を築くための教育・研究を進めています。



中澤 博志 教授
(地盤防災工学研究室)

昨今、日本各地で大規模自然災害が多発し、静岡県も例外ではありません。特に、豪雨や南海トラフ大地震への対策が喫緊の課題である中、地域貢献を念頭に、地盤防災技術の開発や普及を通じた教育・研究を行っています。



西田 孝弘 教授
(社会インフラ材料学研究室)

学生の皆さんと社会インフラ材料学研究の楽しさを共有したいです。また、共同研究などを通じて、自治体や企業の方々や地域の持続的発展について考えていくと同時に、文化や歴史、人間観について学んでいきたいと思っています。



松本 美紀 准教授
(建設・防災マネジメント研究室)

安全で持続可能なまちづくりのために、地域の方々に関わりながら、学生とともに静岡の社会基盤・都市機能を土木技術の視点で考えたい。そのために、地域との協働を目指したいと思います。よろしくお願ひします。

特集

理科実験講座 「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催します

静岡理工科大学では、8～11月に、理科実験講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」を5回開催します。このイベントは、大学の研究者が科学研究費補助金事業（科研費）により行う独創的・先駆的な研究の一部に、講義や実験等を通じて触れることができるプログラムとなっています。

小学5年生～高校生を対象に、以下の日程・内容で開催します。ご興味のある方はお申込みください。

| 日時 | 対象 | テーマ | 講師 |
|-----------|-------------------|---|-------------------|
| 8月24日(水) | 高校1～3年生 | 超音波を使って環境に優しい燃料BDFを作ろう! | 機械工学科 教授 十朱 寧 |
| 10月1日(土) | 中学1～3年生 | 走れ化学ロボット! いきものように走る油滴をつくろう2022 | 物質生命科学科 准教授 南齋 勉 |
| 11月5日(土) | 中学1～3年生 | 温度や光で変身! 不思議なプラスチックに触れてみよう | 物質生命科学科 准教授 小土橋陽平 |
| 11月20日(日) | 高校1～2年生 | 土が液体になる? 地盤の液化化について一緒に学ぼう! | 土木工学科 教授 中澤 博志 |
| 11月26日(土) | 小学5～6年生、 中学1年生 | 抗菌・抗ウイルスグッズを作ってみよう! ～天然由来の染料と香料の再利用～ | 物質生命科学科 准教授 鎌田 昂 |



昨年度のイベントの様子

詳細・申込はこちらから▶

<https://www.sist.ac.jp/news/htsc2022.html>



特集

ふくろい産業イノベーションセンター ピッチイベントを開催しました

3月30日(水)、教育会館(袋井市)で、ふくろい産業イノベーションセンターが主催で、個々の企業や団体等が持つビジネスアイデアの発表や課題提案等を通じ、分野の垣根を越えた様々な主体の交流の機会とすることで、新たな価値創出や新事業の具現化を目指す「ピッチイベント」を開催しました。袋井市内の企業や団体がそれぞれの持つビジネスアイデアを発表し、聴講者がアイデアや技術に対する質問や意見をぶつける活気のあるイベントとなりました。なお、このイベントの様子は本学ホームページで動画を公開しています。ご興味のある方はアクセスしてみてください。

アクセスはこちらから▶

https://www.sist.ac.jp/social/inds/fiic/R3_pitch.html



▲ピッチイベントの様子

授業の紹介

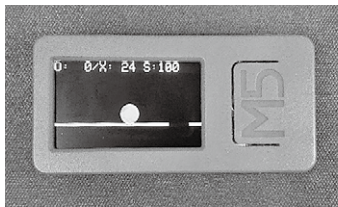
■ 基礎プログラミング・ 応用プログラミング

“プログラミング”というと情報学部などの領域と思われるかもしれませんが、身近にある生活家電、車のエンジン制御から工場の生産ラインにある産業ロボットに至るまで、(マイクロ)コンピュータやシーケンサが組み込まれ、制御に用いられています。プログラムはこれらのコンピュータ等の振る舞いを決めるものであり、電気電子機器に必要な技術の1つとしてプログラミングを学ぶことが重要になっています。

基礎プログラミングでは電気電子系で広く使われているC言語というプログラミング言語について学びます。ただ文法を学ぶのではなく、自分の行いたい処理をC言語という言葉で表現する手法、すなわち「プログラムの書き方」について学びます。また、応用プログラミングでは、パソコン上でのカードゲームや、組み込みシステムを意識してのロボット制御プログラムなど実践的なプログラムの作成を楽しみながら行い、二つの講義を通して「プログラムを自分で書ける」力を身につけることを目標にしています。

担当教員：電気電子工学科 准教授
本良 瑞樹

```
39 void loop() {
40
41   M5.update();
42   if (M5.BtnA.wasPressed()) {
43     jump_cnt = 1;
44     flag_point = 1;
45   }
46   if (jump_cnt >= 1) {
47     n_Peak = (n_Jump+1)/2;
48     ball_y = ball_jump/(n_Jump-n_Peak)/(n_Jump-n_Peak)*(jump_cnt-n_Peak) +
49     jump_cnt = jump_cnt+1;
50   }
51   if (jump_cnt >= (n_Jump+1)) {
52     ball_y = ball_y_org;
53     jump_cnt = 0;
54   }
55
56   M5.Lcd.setCursor(0, 0);
57   M5.Lcd.printf("O:%3d/X:%3d S:%3d", cnt_Succ, cnt_Miss, game_speed);
58   M5.Lcd.fillCircle(ball_x, ball_y_old, ball_r, BLACK); //ボール削除
59   M5.Lcd.fillRect(hole_x_old, road_y, hole_w, 5, BLUE); //穴削除
60   M5.Lcd.fillCircle(ball_x, ball_y, ball_r, RED); //ボール描画
61   M5.Lcd.fillRect(hole_x, road_y, hole_w, 5, BLACK); //穴描画
62
63   //成功失敗判定
64   if ( (hole_x <= ball_x-ball_r) && (ball_x+ball_r <= hole_x+hole_w) ) {
65     if (jump_cnt == 0) {
66       M5.Lcd.fillCircle(ball_x, ball_y, ball_r, BLACK); //ボール削除
67       ball_y = ball_y_org+ball_r; //穴に落ちたボール座標
68       M5.Lcd.fillCircle(ball_x, ball_y, ball_r, RED); //穴に落ちたボール描画
69       delay(1000); //少し待ってからリスタート
70     }
71   }
72 }
```



◀マイクロコンピュータ(M5stickC-Plus)上で実現した、穴や段差をジャンプで跳び越え転がり続ける1ボタンアクションゲーム

社会意識・価値システム研究室 (情報デザイン学科)

おじゃまします。

研究室訪問

第48回



人間は、個人・集団・社会として、どのように情報を処理し、何を行うのでしょうか。この研究室では代々の卒研生たちが、本学学生にみられる各種の意識・行動の解明をテーマとして、本格的な量的調査(アンケート)を実施し、データを統計的に分析・考察してきました。近年は、質的調査(聴き取り)、webアンケート、現地フィールドワーク、ネット情報・文献情報分析、確率計算、情報行動のモデル化など、卒研生たちは多様な方法を活用しています。テーマは各人各様ですが、人間の意識・行動と、その結晶であり、価値観を核とする文化を追究している点が共通です。人間の情報行動と文化の解明をとおして、価値創出の仕組みを提案したいと考えています。

研究室学生からひとこと

松浦 里英 さん (情報デザイン学科4年)

私は、卒業研究で身近な商品である化粧品のコロナ禍前後の売れ行き動向データの比較や過去の研究から、コロナ禍による社会情勢の変化がどのように消費者に影響するのか、またそれに伴いビジネスへどのように影響するのかを明らかにする予定です。

現在、研究室で学生各々が興味のある様々な事柄を自身の卒業研究テーマとして設定し、仲間と意見を交わし、研究の進行に伴ってより深い知識を得られる楽しみを感じながら卒業研究に励んでいます。

研究室担当教員

秋山 憲治 先生

■プロフィール

千葉県出身。早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学。博士(人間科学)。早稲田大学助手等を経て、1991年静岡理工科大学に着任。専門は職業・労働社会学、社会意識論、生活構造論。主な著書は『誰のための労働か』『人生後期への凝視：職業と生活をめぐって』ほか。風景の価値について研究を始めつつ、並行して「職業」という働き方について蓄積してきた研究をとりまとめ中。

Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

「物事の本質を見抜く・理解する」を意識する

株式会社ROKI
新事業本部 フロンティアテクノロジー開発部 藤島 聖剛 さん



私は静岡理工科大学2期生であり、現在、株式会社ROKIにて研究開発に従事しております。弊社はフィルトレーション技術をコアに、自動車・二輪車用フィルターの開発、製造、販売を行っております。

約2年前、新型コロナウイルスの感染拡大でマスクの供給、性能、品質面に関する問題が顕著化してきた事がきっかけで、弊社の知見・技術で社会に貢献できればとの考えのもと、マスクの製造・販売の事業化を致しました。

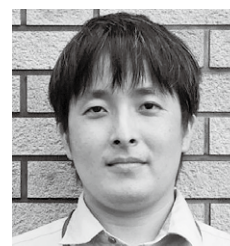
異分野の製品でしたが、マスクの本質を理解し、フィルターの原理原則、過去からの知見の蓄積を基に、短期間で高性能フィルターマスク「纏」を開発、上市を果たすことができました。

こういった経験から、ターゲットの本質を見抜き、理解した上で知見・技術を生かすことが研究開発において非常に重要だと痛感いたしました。

大学では専門分野の知見の蓄積、研究内容や技術の深掘りをしているかと思いますが、そこにぜひ「物事の本質を見抜く・理解する」を意識して学生生活を送っていただければと思います。

学生への期待を込めたメッセージ

静岡県袋井土木事務所
河川改良課 河川改良班 主査 鈴木 崇正 さん



静岡県袋井土木事務所は、県が管理する河川や道路などの工事や維持管理に関する仕事をしています。貴学周辺では、掛川市街地とエコバを結ぶ県道磐田掛川線にて、渋滞緩和のために道路を拡げる工事を進めています。

先日、貴学の御厚意により、土木工学科第1期生の皆さんの前で土木行政の仕事を紹介する機会を設けていただきました。学生の熱心な眼差しが大変印象的でした。次回はぜひ現場を見ていただき、地域の社会基盤を支える「やりがい」を感じてもらえる機会が提供できたらと考えております。

近年、情報技術が様々な分野で変革をもたらしており、土木分野でもICT施工による業務効率化が進んでいます。学生の皆様には、研究等を通じて積極的に最新技術に触れていただき、変革のトップランナーとして社会で活躍することを期待しております。

最後に、地域発展のため官学の連携に積極的に取り組みたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

役職者紹介

2022年6月1日現在

【大学評議員】

| | |
|----------------|-----------|
| 学長 | 木村 雅和 |
| 副学長・研究・産学官連携統括 | 小澤 哲夫(教授) |
| 理工学部長 | 石田 隆弘(教授) |
| 情報学部長 | 幸谷 智紀(教授) |
| 機械工学科長 | 佐藤 彰(教授) |
| 電気電子工学科長 | 土肥 稔(教授) |
| 物質生命科学科長 | 宮地 竜郎(教授) |
| 建築学科長 | 丸田 誠(教授) |
| 土木工学科長 | 松本 健作(教授) |
| コンピュータシステム学科長 | 國持 良行(教授) |
| 情報デザイン学科長 | 富田 寿人(教授) |

| | |
|-------------|-----------|
| 学生部長・学生支援統括 | 太田 達見(教授) |
| 入試広報・大学広報統括 | 山崎 誠志(教授) |
| 事務局長 | 下田 修 |

| | |
|--------|-------|
| 特別顧問 | 梅村 博之 |
| 学事顧問 | 青山藤詞郎 |
| YES長 兼 | |

| | |
|----------------|------------|
| やらまいか創造工学センター長 | 服部 知美(教授) |
| 工作センター長 | 三林 雅彦(教授) |
| 先端機器分析センター長 | 齋藤 明広(教授) |
| 情報教育研究センター長 | 水野 信也(教授) |
| 教育開発センター長 | 本井 幸介(准教授) |
| 国際交流センター長 | 佐藤 健司(教授) |
| 防災教育センター長 | 丸田 誠(教授) |

※YES：やらまいかエディケーションサイト

高校生ものづくり・ことづくりプラン コンテスト2021 最終審査会

2月19日(土)、高校生の考える「こんなモノがあったらいいのに」や「こんなコトをやってみよう」というアイデアを競う、「高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト2021 最終審査会」を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。

今回で9回目の開催となったこのコンテストには、静岡県内外の高校から過去最多の54校597件の応募がありました。最終審査会に出場した4グループによるプレゼンテーションの結果、宮野浩真さんを代表者とするグループ(市川高等学校)が考案した、公共交通機関のデッドスペースを活用して荷物置き場を作る装置「らくらく荷物フック『カギダナ』～バスや電車内での手荷物の問題を解決する～」が最優秀賞に輝きました。また、夜間の学校の空き教室をサードプレイスとして提供する「よるのがっこう」を考案した畑香澄さん(東京学芸大学附属国際中等教育学校)が静岡理科大学学長賞を、英語を話す・書く技術を学ぶためのアプリや場を提供するサービス「エクスプレッシング・イングリッシュプロジェクト」を考案した日野原颯さん(立命館守山高等学校)が浜松いわた信用金庫賞をそれぞれ受賞しました。



令和3年度公開シンポジウム

3月6日(日)、「地域防災・避難」をテーマに、公開シンポジウムをオンラインで開催しました。第1部の基調講演では、東京大学生産技術研究所教授の目黒公郎氏が「迫り来る大規模地震災害を前に、私たちがすべきこと～最近の地震災害からの教訓を踏まえて～」をテーマに講演を行いました。第2部では「防災・避難行動を地域で根付かせるためには」をテーマにパネルディスカッションを行いました。今回は78名が参加し、「緊急時をきちんとイメージした訓練の必要性を痛感した」などの感想をいただきました。



産学連携セミナー

3月2日(水)と3月17日(木)に、学校法人静岡理科大学藤枝イノベーション・commonsで産学連携セミナーを開催しました。2日のセミナーでは、「Society 5.0/Industry 4.0 社会を支える無線IoTデバイス」のタイトルで電気電子工学科の本良瑞樹准教授が、17日のセミナーでは、「土木温故知新-伝統的土木工法蛇籠(じゃかご)技術普及を目指した国際展開-」のタイトルで土木工学科中澤博志教授が、「新装開店!『土木工学科』はじめました!!」のタイトルで同学科松本健作教授が、それぞれ講演を行いました。



第79回SISTサロン

3月11日(金)、本学で第79回SISTサロンを開催しました。今回はこの3月末で定年を迎えられた物質生命科学科の吉田豊教授の最終講義として、「自由・自主・自立を目指した大学における教育と基礎研究—物質中の原子の動きを見る—」をテーマに講演を行いました。ご自身の生い立ちから、専門とするメスバウア分光の研究に進まれたきっかけ、先端機器分析センター開設につながった研究プロジェクトをはじめとした本学での研究活動や、教育活動などの取り組みについてお話いただきました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者を学内関係者に限定しての開催となり、当日は32名が参加しました。



記念図書贈呈

3月4日(金)、袋井市立図書館へ卒業生からの募金による記念図書の寄贈を行いました。大学4年間でお世話になった袋井市へのお礼として、第1期卒業生から第25期卒業生までの25年間は愛野公園へ記念植樹を、翌年の第26期生からは図書の寄贈を行っており、今回が3回目の図書寄贈となります。市民の皆さんが読みたい・読んでいただきたいを念頭に67冊を選定しました。卒業生たちは「贈った本が有意義に活用されることを願っています」と話しました。寄贈した図書は袋井市立図書館に蔵書されます。



卒業式

3月12日(土)、令和3年度卒業証書・学位授与式を挙行了しました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、理工学部対象の午前の部と、情報学部および大学院対象の午後の部に分けて実施し、保護者の方向けに式の様子をZoomで配信しました。理工学部と情報学部を合わせて学部生354名と大学院生15名が卒業・修了しました。卒業生に向け、小澤哲夫副学長より「本学で学んだことを活かし、変化する世の中で活躍してほしい」とエールを送りました。



第8回春休みたいけん研究室

3月29日(火)、本学で新小学4～6年生を対象に第8回春休みたいけん研究室を開催しました。本学学生団体のお理工塾応援隊のメンバーが講師となり、「空気と水のチカラ」(新小学4年生)、「物の溶け方」(新小学5年生)、「しもんを採取しよう」(新小学6年生)のテーマでそれぞれ実験講座を行いました。実験後には、わかったことや考えたことをポスターにまとめ、大学教員に向けて発表を行い、講評をもらうことで、その日の学びを深めました。当日は3学年合計で52名が参加しました。



入学式

4月3日(日)、令和4年度入学式を挙行し、理工学部202名、情報学部121名と、大学院生50名が入学しました。今回は3密回避のため、理工学部対象の午前の部と、情報学部および大学院対象の午後の部に分けて実施し、保護者の方向けに式の様子をZoomで配信しました。午前の部で宣誓した建築学科の阿部朱里さんは「様々なことに自発的に取り組み、充実した学生生活にしたい」と述べました。



令和4年度第1回公開講座

6月26日(日)、「迫りくる自然災害を考える～ダ・ヴィンチの予言から最新DXの活用まで～」をテーマに令和4年度第1回公開講座をオンラインで開催しました。第一部では「台風と砂漠とレオナルド・ダ・ヴィンチ」のテーマで土木工学科の松本健作教授が、第二部では「先端DX河川工学～洪水ハザードマップについて考えてみよう!～」のテーマで袋井市都市建設部道路河川課治水対策室主任の半田吉伸氏と大鐘測量設計株式会社代表取締役専務の八木一仁氏が講演を行いました。当日は114名が参加し、「台風の進路などの自然現象の疑問点がわかって面白かった」などの感想をいただきました。



入試広報NEWS

■土木工学科CH(通称:どぼチャン)はじめました!!

本学は、静岡県唯一の『土木工学科』を今年4月に開設しました。第1期生が入学し、スタートを切った土木工学科にご期待ください。学科開設とともに、皆さんに土木工学の魅力をもっと知っていただくため、動画で土木工学科の日々の活動を伝える「土木工学科CH(どぼチャン)」を開設しました。学科開設に至った経緯や、それまでの道のり、これからの展望などについて土木工学科の教員が語ります。今後は、新入生のインタビューや授業の風景もお届けします!

どぼチャン:

<https://www.sist.ac.jp/navi/article/information/244/>



土木工学科特設サイト:

<https://www.sist.ac.jp/navi/civilengineering/>



■進路イベントの日程【8月~11月】

●オープンキャンパス 8月21日(日)、9月11日(日) (事前予約制)

今年は午前午後の2部開催。1部と2部の内容を変え、大学の魅力を1日で味わえる企画をご用意しています。研究室見学・体験、模擬講義や実験体験、入試説明や過去問題配布、個別相談など、リアルならではの内容で開催予定です。

Webオープンキャンパスも充実のラインナップでお届け予定。詳細や参加申し込みは、本学受験生サイト(<https://www.sist.ac.jp/navi/>)からどうぞ!

本学受験生サイトへのアクセスはこちらから▶



●大学見学会 10月9日(日)、11月6日(日) (事前予約制)

学科説明、研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など

※イベントの内容は変更となる可能性があります。詳細はHPをご覧ください。

人事異動 (令和4年4月1日付採用)

①専門分野 ②略歴 ③趣味



学長
木村 雅和

- ①ものづくり技術(機械・電気電子・化学工学)、電子デバイス、電子機器
- ②東北大学工学研究科電子工学専攻博士課程後期修了。静岡大学融合グローバル領域 教授、同大学イノベーション社会連携推進機構副機構長など兼務で、本学学長に就任。
- ③音楽鑑賞



物質生命科学科
准教授
佃 諭志

- ①ナノ材料化学、無機材料・物性、有機・ハイブリッド材料
- ②大阪大学大学院工学研究科物質化学専攻博士後期課程修了。東北大学多元物質科学研究科講師を経て、本学准教授に就任。
- ③読書



土木工学科 教授
西田 孝弘

- ①社会インフラ材料学、維持管理工学
- ②東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻博士前期課程修了後、同大学院で博士(工学)。(国研)海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所主任研究官を経て、本学教授に就任。
- ③ゴルフ、キャンプ、広島東洋カープ



土木工学科 准教授
松本 美紀

- ①環境政策、防災学、建設マネジメント、土木計画
- ②愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻博士後期課程。一般社団法人地球温暖化防止全国ネット職員を経て、本学准教授に就任。
- ③筋トレ、音楽鑑賞



コンピュータシステム学科
講師
四宮 友貴

- ①知能情報学、ソフトコンピューティング
- ②高知工科大学大学院 工学研究科基盤工学専攻博士後期課程修了。高知工科大学情報学群助教を経て、本学講師に就任。
- ③食べ歩き、旅行、囲碁



情報デザイン学科
准教授
伊藤 明倫

- ①メディアアート、メディアデザイン、映像インスタレーション
- ②名古屋市立大学大学院芸術工学研究科博士前期課程修了。名古屋芸術大学などの非常勤講師を経て、本学准教授に就任。
- ③音楽鑑賞

お疲れ様でした

(令和4年3月31日付退職)

- 学長 野口 博
- 機械工学科 特任講師 田村 博
- 物質生命科学科 教授 吉田 豊
- 情報デザイン学科 教授 奥村 哲
- 情報デザイン学科 講師 榛葉 豊

(令和4年4月25日付退職)

- 物質生命科学科 教授 関山 秀雄



活躍する卒業生

須山建設株式会社 都市ブロック
建築・工事チーム

寺田 悠也 さん (建築学科 第27期卒業生)

私は地元で建築を学びたいと思い、静岡理工科大学に入学しました。大学では、建築設計や構造計算など多くの授業がありました。その中でも建築施工の授業が興味深く、現場見学に行ったり、建物がどのように建てられていくのかを細やかに解説していただいたりしました。卒業研究では太田研究室に所属し、コンクリートに関する研究を行いました。この研究を通して学んだ知識が、現場でコンクリート打設を行う際に活かしています。

現在は、須山建設で現場監督として、現場の施工管理を行っています。現場の職人さんたちに作業の指示を行ったり、作業に必要なものを手配したりする段取りを行っています。日々苦勞したり、失敗したりすることもあります。大学時代に太田教授から頂いた「段取り上手は施工上手」という言葉を胸に、段取り良く現場で施工管理を行っていきたいと思います。

今後は、今までよりも多くの段取りを行っていきと思うので、現場での作業が滞りなく行われるように段取りをしていきたいです。また、仕事をしついでに必要となる一級施工管理技士の国家資格取得を目指し、取得後は現場所長として現場の施工管理をすることが目標です。



新 同窓会評議員紹介

同窓会会員数
9,028名



同窓会評議員
中村 章吾 さん
(コンピュータシステム学科)
卒業生

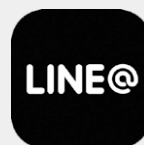
この度、第28期卒業生の代表として同窓会評議員に任命されました。中村章吾です。今後は、評議員として、同窓会活動を楽しみ、真摯に向き合っていければと思っています。

さて、現在の同窓会では、宮川会長を中心に「記念行事」や「ホームカミングデー」など、久しぶりの友達や先輩、先生たちなどと語り会える場の開催を行っています。新しい生活様式も浸透し、あらゆる物事がリモートで行われてくるようになりました。“やるのとやらないのでは違う”という会長のお言葉に沿って、LINEやWEBなどのネットワークを使用するだけでなく、斬新なアイデアを取り入れた新たな試みに挑戦出来たらと思っています。また、引き続きSNSを通じて大学状況や活動を発信することで遠方に居る同窓生などの方々に学校のとの繋がりを身近に感じて頂ければと思っています。

初めてのことで力不足ではありますが、活動を大いに盛り上げることができればと思います。今後とも同窓会活動へのご理解ご協力とご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

「第20回ホームカミングデー」の開催について

現在、同窓会では、「第20回ホームカミングデー」の開催について、コロナ禍において開催できる内容や方法を検討しております。各イベントの詳細並びに開催可否等については、同窓会公式HP及び各種SNSを通じてご連絡致します。



※大学では、同窓生の子が入学した場合に、奨学金を給費する制度を設けています。詳細は、大学：学務課(0538-45-0113)までお問い合わせください。



保護者懇談会の開催について

例年10月に開催している本学の保護者懇談会では、午前に全体会及び学科別懇談会、午後には個別面談(希望者のみ)を実施しています。

全体会では、本学の近況や外部講師をお招きして講演会を行っており、学科別懇談会では各学科の特徴や近況などについて説明させていただいております。また、午後に行われる個別面談では、ご希望の方のみとなりますが、助言教員より学業成績や学生生活の様子などについてお話をさせていただいております。

昨年度の保護者懇談会は新型コロナウイルス感染予防の観点から、全体会は中止としましたが、「学長挨拶、後援会長挨拶、学科別懇談会」をオンデマンド方式、「個別面談」をリアルタイム方式(Web会議システム「Zoom」)を活用にて開催致しました。(希望者には対面での個別面談を行いました。)

現在、新型コロナウイルスの感染防止の観点より、2022年度の保護者懇談会については、実施有無及び開催方法等を含めて検討しております。詳細については9月に送付する学納金納付書に案内文を同封させていただくか、Webポータルでお知らせいたします。

機械工学科 近況

1. 教員一覧
2. 授業状況
3. 学生成績(GPA)分布
4. 就職状況



機械工学科 学科長
佐藤 彰

▲昨年の学科別懇談会の様子



学生サークル「鳥人間を目指す飛行機研究会 SkyTraveler」が鳥人間コンテストに出場

本学の「鳥人間を目指す飛行機研究会 SkyTraveler」が7月23・24日に滋賀県で開催された「第44回鳥人間コンテスト2022」に出場しました。SkyTravelerの鳥人間コンテスト出場は2018年大会以来4年ぶりとなりました。

令和4年度 優秀賞表彰

1年間の学業が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理工科大学 優秀賞」の受賞者36名が決定しました。

機械工学科

2年生 清水 魁人
2年生 高柳 翔
3年生 山本 花音
3年生 横井 優太
4年生 仲谷 大樹
4年生 早馬 由菜

電気電子工学科

2年生 竹田 泰知
2年生 密岡 千洲
3年生 大杉 陸人
3年生 加納 裕斗
4年生 岩田 恵見
4年生 吉田 圭佑

物質生命科学科

2年生 三木ひかる

2年生 宮下 貴翔
3年生 海野 真輝
3年生 大西 彩羽
4年生 齊藤 俊介
4年生 山本なつみ

建築学科

2年生 青木ペドロ
2年生 伊藤 勢来
3年生 落合慎太郎
3年生 戸塚 俊汰
4年生 太田 空
4年生 大平 成耶

コンピュータシステム学科

2年生 大石 彩寧
2年生 齊藤 光
2年生 三階松隼人

2年生 高井 健人
3年生 大庭晋之介
3年生 小宮山佑樹
4年生 飯田 圭祐
4年生 多賀谷 源

情報デザイン学科

3年生 守屋真那斗

3年生 鈴木 正広
4年生 平沢 大翔
システム工学専攻
1年生 篠島 天太

**受賞者の皆さん
おめでとうございます!**



スポットライト がんばる理工科大生

山原 翔 さん(理工学研究科材料科学専攻2年)

私は、有機化学・医薬品化学研究室に所属しており、主にスルホニルフルオリドの効率的合成法の開発・研究に取り組んでおります。

従来法は、危険で有毒な試薬や特殊な装置が必要で、ガラス器具が使えない欠点があります。初めは実験がうまくいかないことばかりでしたが、従来法に代わる合成法を開発するため、諦めずに研究を重ねました。その結果、安全で非常に安価な試薬を用い、ガラス器具も使用可能で、目的物を分液操作のみで精製可能な極めて効率的な合成法を開発できました。現在は、開発した合成法の工業化を目指した検討・改良や、基質の検討について取り組んでおります。

大学生活では、苦手だった有機化学の面白さと奥深さを知り、それらを追求するべく実験を重ねる楽しさを知りました。そして、これらの開発・研究を行っていく上で必要な実験スキルと考え方を教えていただき、身につけることができました。

また学部時代にはお理工塾応援隊に所属し、理科の実験の楽しさを伝える活動を通して、コミュニケーション能力を磨き身につけることが出来ました。

今後の目標は、卒業までの研究活動を全うし、身につけた技術や考え方を、内定先の企業で活かしていきたいです。



編集後記

先日、参議院選挙の争点について、学生から講義中に質問がありました。「〇〇党って良いて聞きましたが、本当ですか? 教えてください!」とのことでした。日本人として、政治に明るい若者が本学にもいることを知り、大変喜ばしく思います。しかし、講義に関係のないことをつらつらと話すのもまずいですし、私的な政治信条を学生に伝えることもどうなのか、若い世代の考えを捻じ曲げてしまわないかなど、色々な考えが頭の中をめぐりました。ところで…選挙もいいですけど、私の講義にも、もうすこしばかり興味を抱いてもらうわけにはいかないだろうか…。最終的にそう思い至り、少し悲しくなりました。(N)

静岡理工科大学キャンパスニュース

令和4年7月31日発行

企画・編集・発行/静岡理工科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<https://www.sist.ac.jp> E-mail:shakai@sist.ac.jp

